

(追悼文)

野村俊明先生を偲んで

日本医科大学スポーツ科学教室

武藤三千代

野村先生は、東大をご卒業されてから日本医大に入学されたので、初めてお会いしたときは学生でした。当時心理学教室の丸山先生のところへよく行かれていることと、テニス部ではないのによく昼休みにテニスをされていたことが思い出されます。それからだいぶ経って心理学教室に教授としていらっしゃり再会したときは、学生時代のイメージとまったく変わらなく、懐かしさでいっぱいでした。新丸子校舎時代はよくランチにでかけたり、放課後に卓球をしました。「野村先生が運動するイメージはない」とよく他の先生方や事務の方に言われてらっしゃいましたが、実はスポーツマンなのでした。武蔵境校舎に移転してからも退職される2年前くらいまでは卓球も続けられ、さらに「山に登るから脚力をつけたいのでどうしたらよい？」と相談され、自重スクワットを推奨したところご多忙の中でもトレーニングされていました。

私が学生から相談され、一人ではどうにもならないと思うとすぐに野村先生のところへ学生とともに伺い一緒にお話ししていただきました。野村先生は、基礎科学主任、学生相談室長、校医のお立場を超えて本当に丁寧に学生の相談にのってくださいました。深夜でも休日でも何かあったときは携帯電話にまでも連絡させていただきましたが、すぐに対応してくださり、本当に助かったことが多々ありました。裏表無く真摯に学生と向き合ってください、当時野村先生により救われ今は立派な医師になり活躍されている先生方も多々いらっしゃいます。

晩年に野村先生が執筆された「刑務所の精神科医」という御本をお送りくださり、なんと一気に読みしてしまいました。野村先生の原点に触れることができた気がしました。野球少年だったんですね。

野村先生、いろいろとありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌